

令和4年度 第8回教育委員会定例会

日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和4年11月8日(火)	教育長 坂元 裕人	教育総務課長 野村 宏治
午前10時00分	教育委員 田原 正人	学校教育課長 今井 誠
↓		
午後 0時10分	教育委員 葛迫 幸平	社会教育課長 港 耕作
第2研修室	教育委員 田之上 厚美	国体推進課長 米田 昭嗣
	教育委員 福里 由加	

会議要旨

- 1 開 会
定刻、定足数に達しており、令和4年度第8回教育委員会定例会を開会した。
- 2 令和4年度第7回定例会会議録の承認について承認
- 3 議 事
議題第17号 垂水市教育支援委員会答申について
議題第18号 令和4年度社会教育功労者の決定について
- 4 その他
事務局より教育委員へ補正予算（第5号・6号）の内容説明
- 5 委員並びに教育長及び課長報告
- 6 閉 会

議 決 事 項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
議案第17号 垂水市教育支援委員会の答申について	垂水市教育支援委員会の答申を受けて、児童生徒の望ましい措置を決定しようとするものである。	特記事項なし	承認
議案第18号 令和4年度社会教育功労者の決定について	垂水市社会教育関係表彰規程に基づき、令和4年度社会教育功労者を決定するものである。	特記事項なし	承認

議 事 内 容 等

3 議 事	
学校教育課長	<p>議案第17号 垂水市教育支援委員会の答申について (非公開) (議案第17号 承認)</p>
社会教育課長	<p>議案第18号 令和4年度社会教育功労者の決定について (非公開) (議案第18号 承認)</p>
4 その他	
教育総務課長	令和4年度垂水市一般会計補正予算(第5号)及び(第6号)について、その内容を説明。
5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告に入る。

葛迫委員

「第45回垂水市民文化祭について」

11月5日（土）、6日（日）に第45回垂水市民文化祭が3年ぶりに開催されました。これまで、コロナ禍のために産業祭も中止されていましたが、今回は産業祭と同時開催ということで、非常に多くの来場者が訪れてまとまったいい文化祭になったと思っています。今までは、展示部門と舞台部分が別々に発表されていましたが、今回は、文化祭の照明がすごく明るくなり、同じ会場（文化会館）で発表できたことで、移動がなくなりました。

また、産業祭の体育館周辺や文化会館には多くの人が集まって、非常に大きなイベントになりました。皆楽しんでるように感じました。文化祭は、垂水小学校金管バンドと垂水中央中学校の吹奏楽部も参加してくれて、その最後の演奏は素晴らしいものでした。大きな拍手のもと子供たちははつらつとした演奏でフィナーレを飾ってくれました。本当に素晴らしい子供たちの演奏でした。

今回の文化祭は、私事ですが、この数年の文化祭の中で一番よかったなと思いました。西尾会長を筆頭に文化協会の事務局の方々、舞台発表や作品発表をする会員の方々、そして会場づくりや舞台発表のスケジュールの管理など社会教育課の職員の方々の力の結集がこの素晴らしい文化祭を生んで、それが成功に繋がっていったのかなと思います。文化協会の会員の皆さんは、コツコツと練習を積み重ねて、なかなか上手にならない。そしてなかなかうまく描けない。演技もなかなかうまくならない。技術もなかなか上達しない。そう思いながらも、やっぱり文化祭の発表を心待ちにされておられます。そして、文化祭では、皆に見てもらうために一生懸命になる。しかし、見てもらうには、やっぱり恥ずかしい思いもされるわけです。下手だったり上手くなかったりすると、その「恥ずかしさ」が「奥ゆかしさ」を生み、見る人の感動を呼び起こします。勝手な思いですが、それでまた来年も足を運びたい。来客者は「私にもできるかな。私もやってみようかな。」と思い、そしてその輪が広がっていく。そして新しい文化が生まれていくと思います。

最後に、市民文化祭の裏方に徹していた社会教育課、課長以下職員の皆が、パネルや椅子、看板などの片付けをしていました。本当にご苦労さまでした。来年のことですけども、上手でなくてもいいし、うまくなくてもいい。多くのみんなが参加できる、垂水市民文化祭が開催されることを願っています。

田之上委員

垂水中央中の学校訪問は、今年最後の学校訪問でした。中央中はいつ行っても、綺麗で整理されていて落ち着いた雰囲気があるなっていう印象で、授業も大分落ち着いた雰囲気の中で行われていたようでした。また、子供たちが授業に向かう姿勢も、きちんとしているように感じました。タブレットやデジタル教科書などの機器がうまく活用されており、ポイントでうまく使われていました。また、学校でも、いろいろな行事が実施されるようになってきたということで、だんだん活気が戻ってきているように感じました。校長先生がPRされた生徒会活動も、もっともっといろんなところに広がっていけばいいなと思いました。

県市町村教育委員会連絡協議会研修会に参加させていただきました。鹿児島大学の先生が、「個別最適化された学びの環境づくり」について講演

をされた。障害を持つ子の話がメインだったのだが、その障害を障害と捉えずに個人の特性として捉えて、その環境と折り合いをうまくつけることで、その障害になっているものを払拭していこうという、その環境の工夫をすることで、課題が解決できるであろうというお話でした。この個別最適化された学びを行うことで、誰一人取り残されることがないようにという、今、大事に言われていることの実現のための一つの方策として、GIGAスクール構想が有意義であろうということでした。また後半では、今話題になっている、「部活動の地域移行」について、国の動きを始め、本県でも先行して取り組んでいる地域の現状などについて報告がありました。垂水市でも今後進めていくことになると思うが、十分に検討されて、子供たちにとってよりよいものになるようにして欲しいと思うことでした。最後に鉄道記念公園がリニューアルオープンしました。家がすぐ近くなので、オープンの日の午後からはずっと子供たちの声が聞こえてきています。平日・休日を問わず、幼稚園児だとか、いろいろな子供たちが元気に遊んでいる姿を見ると、やっぱり遊べる場があるっていうのは子供たちを家からちゃんと出してくれるんだなど、改めて感じることでした。こういう状況が長く続くように、遊具やトイレの管理をきちんとしていただいて、いつも子供たちの声が聞こえてくる場であって欲しいと思います。夕方もう薄暗くなる頃でも、保育園・幼稚園のお迎えの帰りだと思うが、お母さんと子供が、ちょっとだけねっていう感じで遊んだり、また東屋みたいなところで、ちょっと高齢の方たちが座っておしゃべりしていらっしやりたりする姿も見かけます。すごくいい場所になったなと思っているところです。

福里委員

10月27日に市町村教育委員会連絡協議会研修会に参加しました。2点の講話があって、「個別最適化された学びの環境づくり」と、「休日の部活動の地域移行における現状について」でした。私は「部活動の地域移行」にすごく興味がありました。実際に今取組をされている薩摩川内市と与論町の事例報告がありました。実際取組をされてるということで、利点と課題点が示されていてすごくよく分かりました。薩摩川内市では学校職員、生徒、指導者、保護者ごとの、声が書かれていました。課題点もあれば、利点もあるような感じでしたが、その人材を確保する難しさなどを指摘されました。鹿児島市では令和5年度から本格的に休日部活動の地域移行を目指しているようだが、競技によっては、そうできないところもあるというようなことも言われていた。全部の部活動が移行できるようになるのかなと思いました。また、競技を本格的に行っているクラブチームと、学校で行っている部活動が、同じ大会に出ることで、実力の差が誇張され、部活動をする子がやる気を失うのではないかという心配もされていました。実際に県大会に行くのはクラブチームの方が多くである。サッカーに関しては、県大会に行くのは鹿児島市の場合、殆どクラブチームであったと、また、鹿屋市もクラブチームだったという話を聞きました。なお、クラブチームはやっぱり月謝も高いと思うのですが、その中で保護者が負担してもいい金額が書いてあって、千円未満だとか、一番多かったのが、千円か二千円だったと思います。保護者はそれぐらいしか負担したくないんだなって思いました。そういうことで、お金の差ではないけれども、そ

ういいうのでも実力差が出てくるのではないかなと思いました。何かを新しく始めるためにはいろいろ問題点が出てくると思うが、子供たちにとってよい方向に進んでくれるといいなと思います。今週垂小は、土曜日が持久走大会で、中央中は日曜日が文化祭、また市の音楽会も今年から開催されます。幸運なことに、垂小は4年生が出場すると決まっているみたいで、うちの娘の学年が出場できるようです。コロナ禍で2年間いろいろなことが中止になっていました。担任の先生が音楽に長けてる先生みたいで、子供と一緒にチェロをそこで披露するようで、それをすごく楽しみにしているようでした。この前の11月5日の土曜日は大野自然学校を貸していただき、親子でピザづくりを、幼稚園の行事でやりました。大野はピザ釜があるということで、各家庭からトッピングは持ってきてもらって、その場で粉をこねてピザを作りました。ものすごくいい経験になりました。その時、焼き芋もやってみたいと思い立ち、山に落ち葉拾いに行き、落ち葉から焼き芋を焼くということをしました。どちらかと言えば、ピザよりも焼き芋が美味しかったんじゃないかというぐらいの美味しさでした。なかなか落ち葉で焼き芋作りは多分したことないと思うので、大野の施設ってすごくいいなと思いました。社会教育課の福島さんが、一か月ごとに親子で行うプログラムを提示してくれるので、1年間、私も貸してもらえないかなと思うことでした。これまでは、幼稚園で鹿屋の自然の家を利用していたが、ここでも十分色々なことができると思い、来年度は一年間、計画を立てて、貸していただけたらなというふうに思っているところです。

田原委員

10月31日から11月1日にかけて長崎市で行われた、市町村教育委員会研究協議会（第2ブロック）に参加した。第2ブロックというのは、大阪関西から西側の沖縄までの県が参加する会議であった。あまりこういう経験はないと思うが、開通してまだ日が経っていない新車の香りがする長崎新幹線に乗れたことは喜びであった。

1日目は、「ふるさと教育」をテーマにした研究発表で、長崎市の基調講演と大分県玖珠町、長崎県五島市の研究発表があった。基調講演の中で、「そもそも義務教育というのは、『ふるさと』で行われている。その間に触れた自然や風土、地域や家族、友人との触れ合い、郷土の歴史や伝統文化、地域行事などがその人を育て、また帰ってきたいふるさとへの愛着を育む。過疎化、少子高齢化などの進む中、学校・家庭・地域が一体となった人と人が繋がり、関わり合うふるさと教育の重要性を再認識した。その中で一体化する方策の一つとして、いろんな行事やイベントに、計画の段階から子供たちを、参画させる（参加ではなく）ということが、そのように、繋がる、育てるというふうになっていくのではないか。」と言われていた。

2日目は、「不登校の支援」分科会に参加した。ここでは雲仙市と京都市の研究発表があったが、大都市の不登校対策については、これまで学ぶ機会がなかったので、非常に新鮮で興味があった。京都市には、不登校を経験した子供たちが通学できる不登校特例校というものがあるとのこと。京都市の支援体制下の、「洛風中学校」は、「科学の時間」、「創造工房」というような独自の教科を設定し、年間授業時数を普通1,050時間なのを770時間に大分圧縮した教育課程を組んで、不登校を経験した子供たち

が通える学校をつくっていた。もう一つは「洛友中学校」。ここは、昼間部と夜間部の併設校である。昼間部は午後から授業を開始し、午前中に登校が難しい生徒も通いやすくしているとともに、一部の授業で、昼間部と夜間部の生徒が互いに交流し、年齢を超えた学び合いを経験する機会を設けている。年取ったおじさんと中学生ぐらいの子供たちが一緒に交流しながら英語を教え合う、そんな交流の場もあるということでした。

次に、「京都奏和高校」。この学校は、不登校経験など、様々な困りごとを抱えた生徒を支える定時制・単位制高校として令和3年4月に開校した。全生徒の支援のためのシートを作成し、アセスメントや支援の方法を、教職員で共通理解するとともに、スクリーニング会議やケース会議を定期的に行い、生徒一人一人に応じた関わりに努めている。SC（スクールカウンセラー）、SSW（スクールソーシャルワーカー）を共に週4日配置し、迅速に専門的対応を行うとともに、スキルキャリアコンサルタントを週3日配置して、進路に関する相談や助言、特別授業などを卒業後の展望を持つことができる取組を推進していた。この学校ではそういう授業のほかに、就職、進路、高校の卒業後の進路も、指導しているということだった。それから、フリースクール等との連携ということで、行政が民間を跳ね除けるのではなく、民間のフリースクールとも連携していく。民間はそれぞれ長い間やってきているわけで、そのよさがあると思うので、そのよさやノウハウを積極的に取り込んで、例えば自然体験とか、保護者学習会などの事業を連携して実施しているということでした。さらに、GIGA端末を使った居場所づくりということで、京都では平成18年度から令和3年度まで、オンライン上の学習・メールソフトを活用した「はーとあくせす」（京都市不登校児童生徒支援事業）を実施してきたが、令和3年度中にGIGA端末の1人1台配布ができたので、それまでの取組はやめて、令和4年度からは学校ごとのGIGA端末を活用した支援に切り換えたということで、このへんは本市と似たところがあるように思えた。

京都のような大都市では、不登校児童生徒も多く、これだけの児童生徒を何とかしないと大変な日本の損失だという思いから、不登校対策が生まれたのではないだろうかと思うことであった。まあ、不登校専門の中学校をつくるというわけですので、それだけ、不登校生が多いということです。そういう子供たちを何とかしないといけないという思いからだと思いました。京都市の教育理念は、「一人一人を徹底的に大切にする」という方針・理念である。不登校には、必ず不登校にならざるを得ない事情・背景があるのだと。この背景を徹底的にアセスメントして、支援対策を立てると。このアセスメントするための、スクールカウンセラー、ここは最初スクールカウンセラーから入ったのでスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー。スクールカウンセラーは各校1人ずつは必ず配置してあり、スクールソーシャルワーカーは、大体、半分の学校には1人ずつ配置してあるということでした。それから、そういう子供たちに安心・安全な教育環境を意図的につくるということ、これは「居場所づくり」と言うのでしよう。そういった二つのところを目標にしているということで、この子供たちにやってやらなければならないことは、「教育保障をする」ということである。その教育保障の一つは、学習支援である。もう一つは、いろんな体験活動であったり、人との関わりであったり、それを伸ばすような取組

をしているということであった。

小学校、中学校、高校、支援学校の全ての学校にSCを配置し、半分の学校にSSWを配置している。そして、どの学校にもこういう専門家の人がいるので、「チーム学校」として、SCやSSWと連携して取り組んでいる。そしてこの人たちの力を得て、不登校の背景を見たとすると、それぞれ子供の家庭が違うように、原因が違うでしょうから、不登校の背景を見立てた上で、効果的な支援計画を立てて取り組んでいる。それから不登校を生まない未然防止策として、いろんな調査をやっているということであった。生徒へのアンケートであるクラスマネジメントシート。教職員を対象とした、生徒指導三機能チェックリスト。これの三原則は、教職員自身の取組を振り返り、①自己決定の場を与えているか。②自己存在感を与えているか。③共感的な人間関係を育成しているかという実践を振り返ってチェックするリストだという項目もありました。それから、心の居場所づくりハンドブック。これら三つの資料は、全教職員・SC・SSWに配布して、全職員で取り組んでいるそうです。

これらの資料は、皆、何とかして手に入れたい資料なので、どうにかしてもらえないかという要望があったが、ネットにも挙げてない資料なので、是非、京都市に研修に来てくださいということであった。そうしないと手に入らないと言っておられた。まあ何と言うか、不登校対策の最先端を行っているような町だなんて思って、目からうろこの部分もありました。できたら本当にこの三つの資料を手に入れる方法があればいいなと思いました。私たちのところでも、未然防止策として色々な方法をこれらに匹敵するようなものを使っていると思うのですが、子供たちに、自分達の学級の雰囲気がどう変わるかをクラスマネジメントシートみたいに、何らかの形で文章化してアンケートするという方法はいいことだと思いました。

ハンドブックの中で、未然防止策とか、質問が出ました。一つ目は傾向を知るという意味で、学力が思わしくないということ。二つ目は、友達関係がうまくいっているか、人間関係がうまくいっているかというところは、不登校になってきそうな傾向にあるのを発見する一つの方法であるということ。なお、中学校になってくれば、部活動はうまくいっているかとか、部活動での問題がどうかということも、それに加わってくるというような話がありました。このように非常に有意義な研修を受講させていただきましたので、報告しておきます。

教育長

まずは、県民週間。11月1日から7日まで、市内の小・中学校全てを訪問しました。やはりコロナがまた少しずつ増えてきている影響なのか、参加者が少ないように感じました。ただこの期間内に、例えば日曜参観を組むことで、保護者の方々や地域の方々に大勢来ていただく体制をとっている学校もありました。その中で、子供たちが一生懸命学ぶ姿に感動する場面が多々ありました。子供が学ぶ姿を見るというのはいいもので、そこはすごく感動しました。

一方で気になることもあったのですが、例えばこの授業の狙いは何だったのかとか。今日の授業でどんな力が付いたのだろうかとか。今日の授業に子供たちが満足したのだろうかとか。所謂、子供の側に立って見たときに、

授業がちょっと違って見えました。つまり、「先生方、もうちょっと頑張れよ。」という意味です。もうちょっといい授業をしましょうやと。そのためにタブレットももっとよい使い方があるんじゃないかということと併せて、本当に一人一人の子供たちがタブレットを使えているか、使っているのかというところの見届けも大事じゃないかなということも感じました。中にはスピードに付いていけない子供もいるので、それを教師がどう見届け、そしてフォローするかというのは、やっぱり課題だなということも感じたところです。県民週間というのは、やはり保護者の方々、地域の方々に広く学校教育を見てもらって、そしてまた、学校が様々な点で次に向かって改善していくという機会にもなると思うのです。そういう意味で、来年度以降また県民週間に多くの方々の参加をお願いしたいと思うことでした。それが1点目です。

2点目はですね、九州地区の教育長会議が10月の19、20日で行われました。そこで話題になったのが、先ほど福里委員、田之上委員からも出ました「部活動の地域移行の件」これが非常に課題になりまして、文科省、或いはいずれの県もそうなのですが、動きが遅いと、兎に角、何ら参考となるような情報提供がなされないというような不満がありました。殆どの市町村は、来年度予算に向けての作成時期でもあるわけで、何をどんな風に予算を組めばよいのかの見通しが立たないという不満がありました。そのようなことで、今のところ、来年度からスムーズに移行できる場所は少ないんじゃないかなという見通しです。だから逆に言うと、このことは、やはりより慎重丁寧にやっていかないといけない、そうでないとなかなか保護者の方々の理解を得ながらというところは難しいんじゃないかと思っています。また一方で、部活動離れを懸念します。やはり部活動は魅力があるんだというところを発信しながら、どうにかしてうまく移行していくことをやっていかないと、ちょっと厳しい状況になっていくなどある意味危機感を感じています。

九州の教育長会議の中で、GIGAも勿論話題になりました。その中で、垂水の取組を発表したところ、関心を持たれた教育長さん方が多かったです。例えば、「持ち帰り前提のタブレット」とか、「月50ギガまで市で負担するWi-Fiルーターの貸し出し」とか、「オンラインでの小さな学校或いは大きな学校との交流」とか、そういったもの等も非常に興味深いと、それと「心の天気」と言われるところの「スクールライフノート」も、非常に関心が高かったですね。しかしあれはまだ十分扱いきれていないというところが、本音のところ、もっともっと有効に使えると言うところと合わせて「学びの天気」というのもあるんです。これも使うと、すごく子供の学びをまさにきちっと計画的に進めることができるようになってるんです。ここも併せてまた活用を進めていく必要があると思います。

次に、懇親会で隣りになったある女性教育長が面白かったです。その方は民間出身の教育長で、民間の視点で教育を見られるから、非常に厳しい。それで、「垂水市はすごいですね。指導主事も少ない状況で、そんないっぱい業務を抱えられてる中で、GIGAも一生懸命されているんですね。」と、感心されて、それは企業でも十分通用する、ボリューム・内容・速さだというようなことを褒めていただいた。その教育長は、「今の学校を見てまず思ったことは、スピード感がない。もう本当に手緩い。また、これ

は行政にも言えることだ。」「もう民間であればとっくに倒産している。」と厳しい意見をおっしゃいました。民間に比べると、「教育ってなんて緩い世界なんだろう、何とスピード感がないのだろう。」と思うと。だからもうすごく厳しいのです。もう、指導主事に対しても、或いはその市の職員に対するいろんな対応にしてもすごく厳しいのです。私に対して愚痴を言われたので、私は、「教育長、そこはちゃんとバランスよくされるべきじゃないですかね。民間の考え方も大事ですよ。ですけど一方で学校と行政はなかなか時間がかかるというところもあるんですよ。ちょっと、もう少し心のゆとりを持ちながらという部分もないとしんどいと思いますよ。」と話すことでした。

次に10月の27、28、29日で、愛知県の春日井市に行ってきました。春日井市というところは、GIGAスクールの全国レベルで言えばトップクラスを走ってるところです。もう一つ、東で言えば、つくば市がありますが、ここも一般校（民間の公立学校）で頑張っているというところ。春日井市がどれぐらいのレベルで、何をしてるのか。今後どういう方向に行こうとしているのか。もちろん本市のGIGAの方向性とか、中身はこれでいいのかというところの確認もしたくて行って参りました。この春日井市、人口が30万人なので学校数もかなりあるはずですが、全国のいわゆるICT大会で、公開したのは6校しかなかった。小学校3校、中学校3校。私は中学校を見て来たんですけども、もう、全国を走ってるという割には、或いはひょっとするとこれは学校間の格差があるのかなということを一方で感じました。確かに私が見に行った高森台という中学校は、それはそれは進んでいました。何が進んでいたかと言うと、生徒の姿で、まさに、GIGAスクールはどれだけ進んでいるかというのを実感しました。ちなみに春日井市は、もうGIGAを導入して7、8年経つんです。このICT、所謂タブレットを導入して、7、8年の時間の経過の中で、子供たちが確実に成長しているなというのを感しました。例えば、中三の美術・スケッチの授業でした。決して、その授業・美術が得意な方ではない、どちらかと言えばスケッチが苦手という子で、いきいきとした表情の女の子がいたのです。授業が終わってから、私はその子に聞いたんです。「あなたは美術が好きですか?」「はい、好きです。」「以前から?」って聞いたら、「いいえ、以前は苦手でした。絵も下手で、どんな色を塗ればいいのか分からなくて。」という返事が返ってきた。ところが、やはりいろんな作品を画面で共有できるわけで、友達作品も先生が描いてくれた手本となるようなものも。それでまたNETで検索すると、色々な参考となる作品も出てくる。もうタブレットがあるとそういう参考になる作品がいっぱいあると。そしてまた、自分自身の学習履歴もそこにあるわけです。自分の絵がいかに下手だったか。だけど、今はここまで上手になってきているというところがしっかりと可視化できる。「自分自身の成長が嬉しい。だから楽しい。ちょっとずつちょっとずつだけど上手になっていく自分を、きちんと確認できるから楽しいんです。今までリンゴを見ても陰なんて見えなかったんです。でも、今ではしっかりと影を描いている自分が嬉しいんです。」ってその子は言ったのです。だよなと思いました。この、中三の女の子、すごいですよね。

一方、今度は国語の授業。ある課題に対して意見文を書こうという授業

でした。もうその子供たちの、タイピングの早さ、すごいスピードでした。そして、グループでの話し合いも、「この言葉いいね、貰うよ。」みたいな感じで、まさにその学びが活性化している。その子が何と言ったかというところ、「ここもらっていい？ いいとこ取りしていい？」「この言葉は気に入った、貰い。」みたいなことを言いながら、自分の意見を、まさに質を高めていくわけです。そして、授業が終わったらもう本当にすっきりした感じで、「あー。勉強した。」みたいな感じです。また、授業が終わってから、私が例のごとくその子に聞いたんです。「あなた国語好き？」「はい、大好きです。」「どうして？」って聞くと、「まあ言うと、瞬時にそんなふうとして出てくるとか、もう友達のいい意見をもらって、自分の意見が更によくなるといったところ。」もう一つ私がすごく気に入ったのが、スピード感があるってその子が言ったんですよ。国語の授業ですよ。その子は「どんどんどん自分の考えを共有できて、もうとにかくスピード感がある。だから、楽しいんです。」と言いまして、その表現にびっくりしました。要するにどんどん自分が成長していっているのでしょうね。もうその子の中で、どんどんどん自分の考えが高まっていくというのが実感できているのでしょう。

今、二つの事例を話しましたがけれども、その子供の学びの姿を見たときに、垂水の子供たちはまだまだだなと思いました。でも、私はプラス思考でこう考えました。たった一年と6、7か月で、ここまでやってこれている、垂水の子供たちは凄いとその時思いました。垂水に帰ったら、子供たちを褒めないといけないと思いました。向こうはもう7、8年かけてやってきたわけですからね、こちらはまだ1年と数ヶ月ですよ。だから7、8年経ったときの垂水は楽しみですよ。日本一になってるかもしれません。そういう事を考えると、楽しくなってきます。これからの垂水のGIGAも一歩ずつですけども、みんなでまた取り組んでいきたいと思っています。また、一方ではもうちょっと社会教育までGIGAを広げたいなど、そういう事まで考えています。そういった色々な思いで垂水に帰ってくることでした。

ある意味、自分自身にまたスイッチが入ったような気がして、頑張りたいと思います。先程から話に出ていますが、市民文化祭、産業祭は本当にお陰様で賑わいました。ありがとうございました。子供たちの出演の場もありました。協和小の子供の作文の発表の場もありましたね。ああいう場も与えていただいてよかったなと思いました。音楽の発表、金管バンドの発表もありました。少しずつ日常が戻って来つつありますが、一方ではまだコロナに気を付けながら、まずは健康を第一に考え、また、色々なイベントとか、学校行事とか、教育をしっかりと前に進めていきたいと思えます。

教育総務課長
学校教育課長
社会教育課長
国体推進課長

10月8日から11月8日までの主な行事等について各課長が報告。
併せて、11月9日から12月8日までの行事予定についてお知らせした。

6 閉 会

